

◇まえがき◇

機器分析センターこの一年

機器分析センター長 飯石一明

機器分析センターが設置されて、4年が経過しました。平成7年度の補正予算で待望の機器分析センター建物新営が認められ、平成8年3月末竣工になりました。本年度は理学部に間借りの状態での最後の年となりましたが、運営委員会や機器運用部会の皆さんの御支援と利用者の皆さんの御協力のもとによりよいセンターをめざして努力してまいりました。ここに、この一年を振り返り機器分析センター報告第4号をお届けします。

本年度は建物新営の概算要求が認められ、大変忙しい年になりました。機器運用部会の諸先生方や本部および理学部会計のみなさんのご協力のもと、たいしたトラブルもなく順調に建築が進行したことに深く感謝しています。クリーム色の3階建ての建物が姿を現すと、想像していたよりも大きくまた立派であることに満足し、機器分析センターも一人前になるのだと感慨ひとしおでした。

6月21日には広島大学機器分析センター移転式典及び祝賀会に出席いたしました。広島大学の場合、統合移転の一環として行われたもので、理学部の建物と廊下が続いてました。建物面積は1500m²で、山口大学のセンターの1154m²より大きくゆったりした感じでした。さらに広島大学の場合、隣に電子顕微鏡棟が別にありました。大学の規模の違いと同時に、統合された大学のメリットを感じた次第です。

7月11日の運営委員会において、平成6年度の決算報告と平成7年度の予算や広報活動について審議をお願いしました。本年度のセンター予算は約1440万円程度で、その内訳は約890万円が特殊装置維持費で、残りの550万円程度が附属施設経費等です。各装置の責任者と相談しながら、利用者の皆さんに満足していただけるように、予算の配分に気を配っています。ご意見やお気づきの点がございましたら、各学部の運営委員の先生あるいは直接センター（センター教官室：

内線5772、e-mail：nagao@sci.yamaguchi-u.ac.jpあるいはセンター事務室：内線5773、e-mail：morifuku@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp）にご連絡下さい。

8月から9月にかけて、建物の設計に関しまして、機器運用部会での相談や施設部とのヒアリングで多くの先生や事務の方に大変お世話になりました。皆さんがとても協力的でしたので本当にスムーズに運びました。

9月12日の管理委員会におきましては、建物新営の概算が認められたことに対するお礼を申し上げるとともに今後に関してのご支援をお願い致しました。

12月15日には建物新営設備費について相談いたしました。建物が完成する前から建新の予算がつくことはめったにないことのようにですが、これも景気不景気の影響とかで、喜んだり戸惑ったりでした。機器運用部会で相談した時点では、皆さんの要求に比べて予算の方が少なく心配していましたが、最終的には要求がほとんど満たされることになり、安堵いたしました。

平成4年度にセンターが設置されて以来、特別設備費で“電子プローブマイクロアナライザ”や“動的構造解析装置”が、また一般設備費で“オフセンター型極低温4軸回折装置”が導入され、研究成果が学会発表や学術雑誌に報告されています。本報告にも研究成果の一部を執筆して戴いております。昨年度導入された“オフセンター型極低温4軸回折装置”については本報告で理学部の増山先生に解説して戴きました。

本年度は一般設備費で“電子顕微鏡”が、そして科研費A（理学部地球科学の白木教授）で“蛍光X線分析装置”が導入されました。そこで、表紙は理学部の山岡先生にお願いしてデザインしていただきました。また、白木先生他には“蛍光X線分析装置”の解説をして戴きました。

平成7年度は一つの区切りの年だったと思います。平成8年度は新たな飛躍の年になると思えます。どうぞよろしく願いいたします。